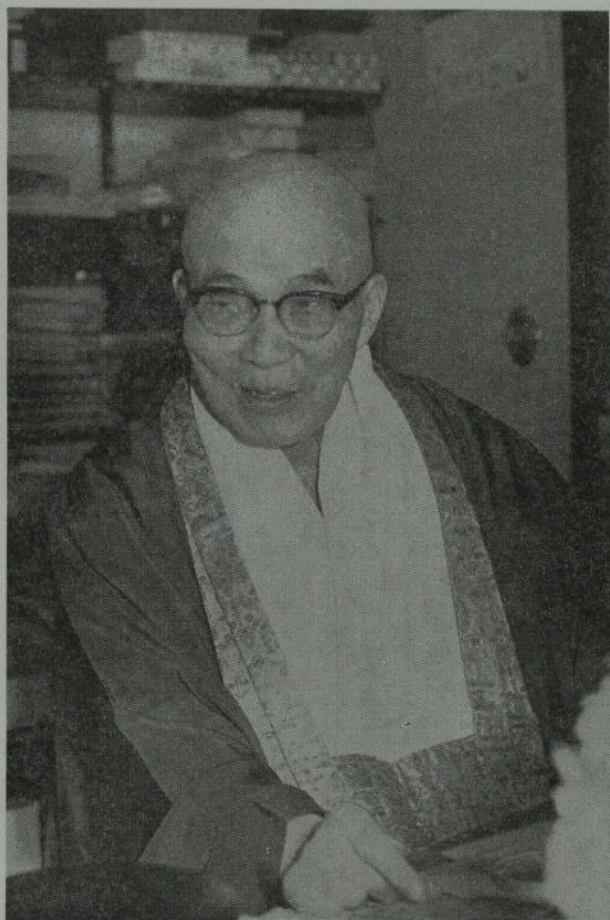


NO 166

# 全 仏

4 / 46

本年正月十二日の宮中お歌会始の儀に御案内をうけて、私は参内し、正殿松の間で行なわれたこの儀式に陪聴する光栄を得ました。御題は「家」と仰せ出されていました。家は一家だんらんの憩いの場所でありますと共に、御先祖様の霊をまつる場所でもあります。私共の今日ある



(浄土門主岸信安猷下)

は歴代の御先祖様のおかげであると申すことができましょう。今日のマイホーム時代、団地生活に於ては御先祖様のまつりを忘れた人々が多いのではないのでしょうか。本年のお歌会始の御題に「家」と仰せ出されたことは、現代日本の社会状態をうれいられる陛下の思召が自然にあらわれたものと拝察いたします。

昭和46年4月1日

# 花まつりに思う

## ―仏教の国際交流―

奈 良 康 明

(駒沢大学教授)



(一)

花まつりが近づくときまつて、パンコックのウェーサーカ祭のことを思い出す。昭和四十三年のことだから、今から三年も前のことになる。ある会議のため

にバンコックにとどまっているうちにウェーサーカにぶつかった。ウェーサーカとは南方仏教徒にとって唯一最大の釈尊をしのぶ祭である。私たちの誕生会、成道会、涅槃会を一緒にして祝うもので、旧曆ウェーサーカ月の満月の日におこなわれる。現今の曆に直すと大体五月にあたる。

夕方になると市内最大の寺院には何千という人が集まって、仏前に花を捧げ、ローソクをあげる。あの広い境内を埋めつくし、花とローソクを手にもって、静かに読経の声を耳をかたむける敬虔な大群集をみて、ここでは仏教は生きているなというのを痛感した。と同時に、私は浅草の観音様の縁日をも思い出さずにはいられなかった。

ある。

(二)

忌憚なくいえば、観音様の縁日に参詣にくる人の大部分は、直接的な現世利益を求めている。仏教の最も本質的な部分、つまり、自己の内部をみつめ、ギリギリと自己を深化するレヴェルとはあまり関係がない。しかし、自己を凝視するという高次のレヴェルの宗教を求める人の教はいつの時代でもかざられているものだし、同時に、何か人間より高い存在、聖なるものになすかつて日常生活の諸問題を直截に解決して欲しいというのが、ほとんどの人にとって最大の関心事であることはまちがいない。だから、こうしてパンコックの寺の信者たちが、やはり、攘災、招福や死後の生天といった現実的な利益を求めて集まってきているのだと、後に聞かされても驚かなかった。南方仏教でも、自己を凝視し真実の自己を把握しようとするレヴェルは当然あるし、そのための修行に専念している比丘も何人か知っている。そして彼らが、寺詣りにくる真面目な信者たちが実は勝手な願ひごとばかりで、本当に仏教的な生活をあまり考えていないとこぼしたとしても、事情は日本でも同じなのであり、予期した答がその通りに出てきたという程度にしか感じなかったのだ

少し理屈っぽくいうなら、仏教に限らず、どの宗教団にも人間の究極の価値を追求する高いレヴェルと、直截に人生日常の諸問題を解決する低いレヴェルとの二つがあるものと思う。禅でもお念仏でも、その他の日本仏教の各宗派をみても、その中心となる教義や行によって、永遠にたらなり生死を遠離した人間の真の価値が求められる。しかし、本山や僧林で修行した僧侶たちが地方に散ってゆき、村や町の寺に住んで一般大衆と接するようになると、こうした高い次元の宗教など最初から求めていない。祖先崇拜や呪術、祈祷のように人生の問題を端的に解決してくれる儀礼を求めるのが普通である。そして、こうした要請を僧侶が受けとめ、それに応じた儀礼を行ってやるのが悪いことであるとは私は毛頭思わない。むしろ、それによって、在家信者をも含めた幅広い教団が形成されるのだし、教団があるからこそ高い次元の自己凝視の修行や伝統を守ってゆく場が与えられるものである。教団という組織体の歴史的流れをどこでもいいた断ち切り、断面図を作ってみるなら、必ずやこの二つのレヴェル、つまり永遠の価値を追求する本質的なレヴェルと、祖先崇拜や呪術、祈祷に代表されるレヴェルとが併存しているに違いないのである。

そして、この両者の間には相互に関係づけようとする意欲が常に働いていた。僧侶が在家信者のために祖霊をなぐさめる儀式をおこない、祈祷をする時、それらは仏教本来の自己凝視のレヴェルへの様々な関係づけがこころみられた。それらは僧侶にとってふさわしい仕事である、いや、必須の仕事であるということが積極的に主張された。そして、ある時にはそうした民

間信仰的な要素がそのまま仏教にとりいれられ、またある時には仏教的なものに改変され昇華されて定着した。こういう形で仏教教団の発展があったものと思ふ。

ただ、やはり、仏教本来の自己をみつめて修行するレヴェルと、直接的な現世利益のレヴェルとは区別しておかなければなるまい。仏道修行をする僧侶が在家人のために祖先崇拜の儀式を執行し、御祈祷をしてあげることとは結構なことだし、教化の場をうるといった利点もあろう。だからといって、法要や祈祷さえやっていたら仏道修行になるということにはならない。本末顛倒しては困るのである。

(三)

もっとも、こうした現象は日本の仏教に限ることではない。キリスト教でも、南方仏教でも、およそ宗教教団というものがあるところでは常に同じことがいえる。そして、お互に、高い次元の自己凝視の部分、つまりその宗教の最も本質的な部分を評価しようとはしない。現象として最も眼につき易い部分、祖先崇拜や呪術、祈祷等の儀礼のみをとり上げ、その内面をみずして外形のみを批判し、もって低俗なるものと悪口をいい合う。

試みに南方仏教徒に日本の大乘仏教の評価をきいてみるがいい。意味のない儀礼をおこなうだけの宗教という批判が一般的であり、充実した人間生活の基盤となりうる宗教とみる人はごく少数である。そこには大乘仏教の自己凝視の深さ、あの高次の宗教性についての何らの知識も理解もない。特に僧侶に対しては、飲酒し妻帯するという理由だけで十分に非難、軽蔑の対象となる。反面に私共は、日本仏教はこうした問題はすでにのりこえており、本質論よりいうなら、飲酒妻帯により大乘仏教の深さが損なわれることはないと考え

えている。むしろ逆に、南方仏教の形式主義を指摘し、仏教精神の枯渇を笑うことが多い。南方仏教の人々に日本仏教の歴史のありようを説明し、理解させるのは容易なことではない。何故なら、彼らの大部分にあって、日本の仏教に深い内容があるとは考えられないことだし、また、何かがあるとしても、それを知ろうとする意欲も全くない。自らの仏教のみを唯一最高とし、その立場から日本仏教を軽蔑するだけなのである。バンコックの仏教界の大立者たちが、日本の坊さんは比丘ではない、ウバンク（優婆塞）といえ、と明言するのも、こうした理解の一あらわれでしかないのである。

私が奇妙に思うのは、南方仏教団に行かれた日本の仏教徒たちが、こうした批判、あるいは風潮を何故問題にしないのかということである。言葉の不自由さのあることは判るし、公式の接觸の場で軽蔑的な発言の出てくることは無論ない。会議などではちゃんと比丘あつかいをしてくれるのであるが、実際問題として、これだけ顕著に流れている空気を何故に気がつかないのか。またもし、気がついてはいるのだが、それに対して何かをするのは面倒くさいとか、あるいは何かをしたって仕方がない、というのなら、話は別である。それならば、「本当の意味」での国際交流は最初からあきらめていることになる。

仏教界の国際交流は年々さかんになってゆく。ルンビニ開発の問題のように、同じ目的のために力をあわせて仕事をすることもふえよう。同じ仏教徒として様々な仕事を共同してすすめてゆかねばならないし、これはこれで仏教(徒)の国際交流であることは疑いない。しかし、もっと根本的な次元で、同じ仏陀の教を奉じる「人間」同志として、相互の理解を深める地道な努力が忘れられているのではないかと思う。

そして、このことは何も仏教徒同志だけのことで

ない。他宗教とも同じ努力が必要だろうと思う。ただ、こうした方向に進むためには、まず、お互が人間の尊敬と同情を持ちあわねばならないのだが、南方仏教国やインド等、東南アジアの人々のことを「土人」と呼びずする驚くべき驕傲と無神経さが日本仏教徒の間にはしばしば見られるような現状では、これもまた遠い夢のことかし知れない。

哀 悼

推尾 弁匡師(浄土宗大本山増上寺法主・元全日本仏教会副会長)



四月七日午後十二時三十分老衰のため遷化された。享年九十四歳同師は明治九年愛知県に生まれ、同三十八年東京帝大を銀時計を受けて卒業。同三十八年

宗教大学教授、同四十年浄土宗教学部長、昭和十一年大正大学々長、その後、二回に亘り同大学々長をつとめた。又、大正初期より「共生運動」をもつて教界に大きな足跡を残し、その間、愛知県第一区より衆議院に当選、僧侶議員の第一号として三期当選。鶴見祐輔氏らと明政会を組織して政界に新風をおくった。

全一仏教運動の推進者として全仏結成当初の副会長をつとめた。ともあれ、明治、大正、昭和の三代を通して一世の仏教学者であり、文字通り宗教界の巨星的存在であった。本葬儀は五月二十五日午後一時から岸信宏浄土門主の導師により大本山増上寺で執行される。

# 参議院選挙を迎え

## 全仏推選候補者を決定

来る六月二十七日に施行を予定されている第九回参議院議員通常選挙に当り、本会は左記の通り、全国区八名、地方区において九名、計十七名の立候補予定者に推薦状を交付し、強力に支援することになった。即ち、昨年十月二十七日理事會において従来の推薦要項を一部改正し、一月十八日加盟宗派仏各団体にその推薦方を要請した。骨子とする処は、候補者が推薦団体と密接な関係を有することとは勿論、仏教外護のために活躍し、又はその可能性のあるものとし、申請書には正規機関で推薦を決定したことを証する旨を特記するよう依頼した。続いて三月十五日東京本願寺記念館に本会常務理事會を開催、その席上万場一致十七名の推薦が決定したのである。立候補予定者はほとんどが本会加盟宗派の檀信徒であり、中には全一仏教運動に積極的に活躍されている者も居る。各位の誠意ある支援によって天晴れ栄冠を獲得し、大いにその活躍を期待するものである。

### (全国区)

佐藤 三蔵 64歳 自民・新  
経歴 大阪外語、東京医大卒、医学博士



現在 ライオンズ国際協会名誉顧問 菊屋齋医院院長

山本 スギ 68歳 自民・現  
経歴 東京女子医専卒、医学博士、行管政務次官等歴任



現在 参議院議院全日本仏教会常務理事、全日本仏教婦人連盟理事長、日本女医会理事等

町村 金五 70歳 自民・新



経歴 東大卒、内務省勤務、富山・新潟両県知事、東京都次長、警視總監等歴任  
現在 北海道知事

渥美 節夫 49歳 自民・新  
経歴 東大卒、長崎県庁、厚生省勤務、厚生省の要職を経て



現在 社会福祉評論家として活躍

石本 しげる 57歳 自民・前  
経歴 日赤救護看護婦養成所卒、国立がんセンター初代総局長、参議院議員



現在 日本看護協

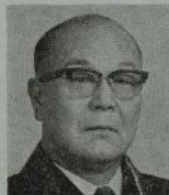
会長他、看護の方面の要職にある

慶野 聡郎 59歳 自民・新  
経歴 中央大卒、民間会社重役歴任



現在 宗教懇話会世話人、全日本仏教会評議員、中央大学協議員等

川野 三暁 61歳 自民・前  
経歴 全日本仏教会国際部長、参議院議員



現在 本願寺派僧侶、宗会議員

中川 三郎 55歳 自民・新  
経歴 慶応大中退後ニューヨーク市立大卒、その後、モダンダンスを研修、帰朝後はモダンダンスの普及に大いに活躍、全日本職業舞踊家協会設立と同時に初代会長となり現在に至る。



(地方区)

### (地方区)

河野 謙三 69歳 自民・現  
(神奈川県)



経歴 早大卒、日産化学工業入社後日本肥糧KK理事、肥料配給公団理事、平塚商工会議所会頭を経て、衆議院議員に当選、参議院当選三回

現在 参議院議員

原 文兵衛 57歳 自民・新  
(東京都)



経歴 東大卒、長野、神奈川県警本部長、警視庁警務部長、警視總監、公害防止事業団理事を経て現在に至る。

石原 幹市郎 68歳 自民・現  
(福島県)



経歴 東大卒、福島県知事、国務大臣  
現在 参議院議員 天台宗果檀信徒会名誉会長

棚辺 四郎 58歳 自民・新  
(福島県)



経歴 福島県議會議員四期、福島県農協組合中央会々長  
現在 福島農協五連会長、福島県成人病予防協会理事等々

中村 禎二 68歳 自民・新  
(長崎県)



経歴 長崎県立農学校卒、長崎県議會議員、議長  
現在 野母商船KK、重役

吉武恵市 67歳 自民・現



(山口県)

経歴 東大卒、内務省勤務、富山県知事他政府の要職を経て、衆議院議員(三回)、参議院議員(二回)に

当選。この間、労働大臣、厚生大臣自民党幹事長を経て

現在 参議院議員総会副会長。

お、ば 哲夫 67歳 自民・新

(香川県)



経歴 早大卒、日本航空嘱託を初め通信省、運輸省、全日本空輸KK、等航空関係の要職を経て

現在 全日本空輸KK顧問、日本航空KK常勤顧問、スポーツ面でも活躍、現在日本体育協会理事

植木光教 44歳 自民・現



(京都府)

経歴 東大卒、NHK入社、北海道知事登長、参議院当選二回この間、通産政務次官、各委員、理事等の要

職を歴任。

現在 自民党国会対策副委員長(財)南太平洋戦没者慰霊協会理事長(財)国際

仏教興隆協会参与

河本 嘉久蔵 54歳 自民・新

(滋賀県)



経歴 杉根高等商業卒、すぐに従軍戦後綾羽紡績KK設立、滋賀県教育委員会委員を経て

現在(財)国民協会理事、浄土真宗本願寺派宗会議員

# 第十八回全日本仏教徒会議報告

(二)

## 部会報告 青年部会報告

部長 金岡秀友先生

時間的に申して第一部会、第二部会の終了した午後六時から十時にかけて場所

も八万台休暇センター宿舎を使用して行なった関係上、参加者の中には第一部会第二部会の質疑、討議をふまえて参加したのもありまして、只今お話のありました第一部会、第二部会の問題点がそのまま持ち込まれ更に質疑されるとい

外の結果を生んだことを喜ぶものであります。

第一部会が理論的な面に関し、第二部会が実践的な面に関して質疑が高められたという、只今のご報告であります、それに関連して申し上げますならば、この青年部会は以上の二つを合わせて、それに青年の視点からとらえるというところに特色があったように思えるのであります。

既にお手許に配布した資料によってご承知の如く、この青年部会において提出されました議案は二つでありまして、地元長岡市仏青から出された第十二号議案、仏教に対する現代青年の意識とその問題点、第十三号議案として全日仏青から提案されました、仏教青年は時代の問題点と如何にかかり合いを持つべきかという、この二つについて質疑が行なわれたのであります、この質疑に入りま

す前に経過報告、その他に続いて一応基調講演という次第が設けられてそれを私が致すようにということでございますので、この二つに共通する問題点について私が考えているところを申し上げます、私がありますが、その問題点として申し上げますことは、この両方の議案は仏教の立場を踏まえて申しますれば、長岡仏青が提出いたしました議案は、一般青年が仏教に向けている眼という点、いわば外から向けた眼であるというところに特色があるのに対して、全日仏青の方で提出されました議案は、時代の問題点とい

日本宗教制度史の集大成

全巻予約出版

訂補  
改増

# 日本宗教制度史 全4巻

梅田義彦著

A5判・上製箱入  
平均 600頁

定価 32,000円(全4巻)

すいせんのことば 稲田稔界氏=古今を一貫した日本宗教制度史として壯観というべく、類書に超絶した内容と価値を備えた好著である。

予約締切46年4月末

特典 一括前払特価28,000円

近代篇 上代篇 中世篇 近世篇の順に発刊 第1回配本3月末

寛泰彦・小沢富夫編

# 日本人の倫理思想

日本民族の思想・精神の源泉を辿る初の体系的倫理思想史

A5判・326頁・1300円

東宣出版

東京都千代田区富士見2-6-9  
(電) 03(263)0997 振替 154384

にかかり合うかという点で、今度は仏教青年という内側に立って外に向ける眼と、受けとめる眼という点で立場の相異はございますけれども、共にこの現代青年が如何に仏教というものを考えてゆかねばならないかということ、内外から考えてゆこうという点で、共通の課題になり得るだろうというような事を申し上げたのであります。

それに引き続きまして、会場を改めましてそれぞれの議案提出者であります、長岡仏青と全日仏青の責任者の方々からこの議案の内容・経過について詳しい説明があったのでございますが先ず長岡仏青の現代青年の仏教に対する意識とその問題点ということに關しましてこの会場に配られた非常に整った資料がございませぬ。恐らくお聞きの方々の中にもそういう様な資料であったなら一部手許に欲しいという要望もあるのではないかと思う様に内容の充実したものでございます。「第十八回全日本仏教徒会議新潟大会、仏教についての意識調査―結果と分析―大会実行委員会青年部」という資料でございまして時間の関係上詳しいことは申し上げられませんが、五つの質問を立ててございませぬ。その五つの質問も非常によく考えられたようでございます。①あなたは宗教——この場合は新しい宗教を含めてございませぬ——をどの様に考えていますか②あなたは仏教についてどの様に考えていますか、宗教一般から仏教へ移り更に③あなたは現代社会に於ける

お寺の存在をどの様に考えていますかとここで又一つ進んで寺という具体的な問題に移ります、そして今度は外にある仏教の一つの具体的な現われである寺に對して④家庭内にある仏教のシンボルとして家庭内に古くからある仏壇についてどの様に考えていますかという仏壇の問題を取り上げたのでございます。そして最後に⑤僧侶と何かの機会にかかわり合ったことがあると思えますがどの様に感じましたかという、最後にはお寺さん方僧侶の問題にしばっての質問、いはば非常に抽象的なところから具体的なところへ移ると申しますか、仏教の建て前から言いますと仏法僧の問題をそれぞれ

の形でとらえたという事が言える様に感じましたのでございませぬ。仏教を具体的に全般的にとらえた非常によく出来た質問だったと思えます。そしてその五つの質問すべてに對して賢察しその答え方の模範を三つずつ立ててあってその三つから答えを出すという形式のアンケートであり、そのアンケートに答えた人々は十八歳から二十九歳までの青年男女に限られておりましたその職種もいろいろでございますけれども、やはり地域の特性が反映されていると思えますが、農業、会社員公務員、学生、自営、無職、不明という様な分類でございまして勿論それに男女の別が加わって非常に細かい資料が出来上ったのでございませぬ。その結果を私共拝見いたしました、更にその余白に書き込まれました一般青年の仏教に対する赤

裸々な声というものも最後に要約してありますけれども、これを一口で申し上げるということになりますと私は次の様になるのではないかと思います。

それは一般青年は仏教に對して非常に大きな期待を持っている。仏教に對していろいろな疑問が提出されておりますけれども、それは知らんと欲して知られざれども、それはかしさと申しますか、なやみと申しますか、そういう建設的な角度から仏教に物足りなさ、おれたちは求めているのだから早く教えてくれという声であつていわば好意ある叱責の声である様に思われるのであります。そういう点ではいろいろな意見が出ましたご報告もございましたけれども仏教に對しての期待という一点では確認してよい様に感じ、ご列席の方々も大体そういう様にお感じになつた様でございます。

これに對しまして是非ここで開陳しなければならぬご報告として受けとめたいと思ひますのはこの様に仏教に對する大きな期待があり乍ら僧侶の方々僧侶の活動ということに對しましてやはりそういう充分に活動しない僧侶に對して尊敬の念を持ち得ないという面を表明している人もあつた様であります。

これに關しましてのご質問は非常に活発に行なわれまして先程も一寸申し上げました様に第一部会第二部会に出席した後にこちらにこられた方々もございませぬ。第一部会の部会長さんが僧侶の社会的地位というものに対する近頃の調査

創立30周年



創業94年

30年のあゆみを  
これからの  
ひろがる世界と  
日々にかかします

あなたの おそばに

東海銀行

全国200余店 海外2店・2駐在員事務所

の結果では十五、六番目位でござい  
す。ホテルのマネジャの次くらいに考  
えられているというご報告も併せてご報告  
があったのであります。しかしそれに併  
せて考えますればそういう日本の資料が  
ありますと同時にアメリカあたりの同じ  
様な社会意識の調査に於ては宗教家は高  
い地位に位している訳でございませう。こ  
れは宗教家が近代社会に於てかつての栄  
光を保持し得なくなったという一般的  
傾向の現われとして我々は逃げるべきで  
なく、日本に於て特に顕著に宗教家に対  
する評価が低下しつつあることとして卒  
直に受け止めなければならぬと感じてい  
る訳であります。この意識調査は仏教に  
対して決して只批判的な地域に於て行な  
われたのではないことは勿論であります  
し更にこの抽出方式は寺院に於ける任意  
の抽出方式を主としてそれに仏教青年  
会、県仏等の協力によって出来たもので  
あるというご報告がございましたのでい  
わば、全体的に言えば仏教に対して好意  
ある結果が今ご報告申し上げた様であ  
るとすれば比較的好意を持たざる地域或  
は関心を持たざる地域、例えば、東京と  
か大阪の様な地域で同じ様な調査を行な  
った結果もつと特異な結果が出ることは  
充分予想されるところであります。この  
長岡の仏教青年会のご報告で約半分以上  
の時間が経過した訳でございませうけれど  
もそれを踏まえて全日仏青から仏教青年  
は時代の問題点と如何にかかわり合いを  
もつべきかという点に關しまして細かい

ご説明があったのでございませう。このご  
報告は先程の私の基調報告に合せてご説  
明下さったのでありますけれども問題は  
結局二点になるということであつた様に  
思ひます。  
一点はやはり仏教自体を仏教青年或い  
は仏教者というものが正しく把握するか  
どうかという基本的な点でこの基本的な  
点に關しての質問も亦あつた訳でござ  
いましていろいろ結構な社会的な思考と  
いうものが出るけれども仏教自身を把握  
していかないでどうして社会に出てゆくこ  
とが出来るかというこの最も基本的なご  
指摘もあつたのであります。  
このことにつきましては我々の仏教生  
活、生涯全部がこれにかかつている訳で  
ありますから勿論論議の間でそれを可決  
するといふ様な性質のものではございま  
せんからやはり、この際僧侶は襟を正し  
て仏教的な生活、仏教的な修業に邁進する  
ことを確認し合つて更にそこから具体的  
な問題をしどこの様なことが考えられて  
ゆくか、現代の問題点、時代の問題点を  
どの様に受け止めていったらよいかとい  
う事をにらんで話し合つたのでありま  
す。それを要訳しますといふ様な議論  
の中から結局二つの方向が出たのではな  
いかと思ひます。一点はやはり我々の身  
近かな申しますか、心に直結した範囲で  
考えられる仏教的な実践であります。こ  
れはかつての高僧方が行なわれまして様  
なさまざま資料、実践というものが我  
々のよい指針となるでございませう。

しかし乍ら現代の問題点という以上、  
それに我々が直結出来ない事も亦明らか  
でありまして現代の社会状況、経済的な  
状況政治的な状況というものは非常に複  
雑な形をとつておりまして我々がもつて  
おります仏教的信念とか善意というもの  
はそのまま直線的に社会的に効果ある実  
践に直結するといふことをゆるさなくな  
つております。やはりこの社会というも  
のを正確に見抜いてそしてその社会状況  
の如何なるところに矛盾があるか、如何  
なるところに問題点があるかといふこと  
を見る為のいわば世間智といふものが充  
分でないならぬ。この点に於きま  
して仏教はキリスト教の様な宗教と比較  
した場合にやはり一考を要するものがあ  
るといふことも反省の言葉として出た訳  
であります。この問題は大体この二点に  
あつた活発に論議が交されたのであり  
ますが、時間が迫つて参りましたので議  
長の発議によりまして第二部会でもご提  
案があつた様に今承りました岐阜県仏教  
青年会からいわば動議というか参考とい  
うかご報告があつたのであります。この  
岐阜県の仏教特に青年部の動きは今の第  
二部会の白川先生のご報告で殆んど尽き  
ているのであります。それでは特別にお  
経を習おう運動といふのがご報告あつた  
様であります。少し補足させて戴きま  
すと、この岐阜県仏教青年会は年間行事  
として十一に亘る実に多彩な運動を展開  
しておられたのであります。お経を習お  
う運動も実はその一つでございましてその

# 浄土宗全書

—日本仏教の成果 浄土教のあけぼの—

- 予約申込規定 全四十二巻予約申込者のみに限り出版します。
- 定 価 各 巻 2,000円/特価 全四十二巻一時払80,000円/申込期限/昭和45年7月末日 ※内容見本進呈※
- 刊 行 期 日 昭和45年4月第一巻好評発売中・第二巻5月配本・第三巻6月配本・毎月一冊刊行
- 御申込みは大正大学浄土学研究室・仏教大学浄土学研究室・右記発売元又はお近くの書店か浄土宗宗務支所にお申込み下さい。

★おわび—解説・執筆家本善隆先生ご病気の為2回配本が遅延いたしましたことを、ご購読者各位に深くおわび申し上げます。

発行所 浄土宗開宗八百年  
記念慶讃準備局

総発売元 山喜房仏書林

東京都文京区本郷5-28-4東大赤門  
前 TEL03-811-5361 振替 東京1900

他に献血クラブの結成からずっと継続しての活動状況、更には交通安全の運動、日曜学校、講演会等考えられる仏教行事の殆んど全般にわたっておりまして聞いている者達がその活発な活動で非常に感嘆したのでございます。これに對しましても一、二の質問が出たのでございまして、その質問の中でやはり我々が注意しなければならぬと思われることはこういう活動が言わなければ社会的に何と云いますか、社会の病根深くタッチした運動でなくどちらかと言えは行事としての花形といえますか大成的な傾きがないかというご指摘があったのであります。このご指摘も会果てた後にさまざまに議論したところでございますが、この岐阜県この今日の成果はお話を承っておりますと始めからこの様なものではなかった、ごくわずかな人数で刻々に積み重ねてこまめで来たというそういう積み重ねであるところには私は一番大きな感銘を受けたのであります。特にこの岐阜県仏教青年会の問題意識の中で、私共非常に打たれましたことは、この現代の仏教人口というものが逆さのピラミッドになりつつある。高年令層を支えとしての仏教人口というものが支えられているところに深い危機意識をお感じになり、何とか十年後二十年後に逆転させたいというご決意のもとに子供或いは幼児を対象としての布教活動をご活発に始められた。しかもこの場合会長さん是在家の方にお願ひするということを一つの定規としてお決めに

なっておりますのでありまして、こういうさまざまな問題意識の上に立ってのご活躍というものはやはり私共は重視しなければならぬ示唆に富んでいるものと考える訳であります。

更にもう一つ附け加えさせて頂きまして先程どなたかのご質問にありました様に毎年結構な決議が採択されますけれどもその実行の成果報告というものが確認されているかという意見でございましてけれども、これは青年部会に於きましては会の始まる前から大きな議論が出たところでありまして我々が確認いたしましたところでは少くも今までに出た決議の中で献血運動と労働災害による被災者に対する救護の手というものをさしのべることは続けて来ているということが確認された訳であります。

しかし乍ら昨日の献血運動の車があそこに出たおりました場合でも七〇〇〇人からの参加がありましたのに対してやはり献血の成果は微々たるものであったというのを聞きまして私共もその点には今後も考えるべき問題があったと思いません。勿論これはもう一つの問題を同時に提出しているのでありまして、七〇〇〇人の参加者がありましてその中或いはもっと多くの人々は献血をむしろ受けたような高年令層の方が多くて、献血しようという若年令層の方々の参加が少なかったという一つの問題点を同時に提起している。しかしいろいろの問題を含みつつも昨日の青年部会及びこの長岡大

会は何と申ししても在家の多数の方々のご参加のもとに出来たという点で我々は非常に喜びを感じつつ今後を期したのであります。

以上申し上げた様な経過でありまして我々は問題を提出した二案でありますので採択云々という事ではなくしてこの問題を踏まえて本質的に具体的に明年に賭けようということで散会した訳で以上簡単でありますけれども部会の報告に代えさせて頂きます。

### 檀信徒部会報告

新潟県仏教会及び長岡市檀信徒会の提出議案は「寺院と檀信徒は協力して仏教を興隆しよう」というもので、説明者は長岡市檀信徒会の近藤正成氏でありました。

その要点は寺院と檀信徒は次の四つの点で協力して仏教を興隆しようというものであります。

1 寺院から判り易く経文、法話を檀信徒に教えて頂きたいということである。

判り易くということとは昨日の大会長大谷光照親下の御法話の様に深く経蔵に入って体得された定義より平易にお説き願いたいということである。

2 檀信徒は常に仏教会の諸行事に積極的に参加するということである。

各寺のお寺の諸行事に参加した

り、仏教会の主権の諸行事に参加協力し進んで新事業を企画するということである。

3 寺院と協力して檀信徒会の結成を先ず県下全般に呼びかける。更に進んで全国に波及することを乞い願うということである。

4 寺院と協力して仏の教えを各家庭に浸透させ進んで職場や社会全般に働きかけたいということである。

例えば先ず始めに家庭では朝夕の禮拜より始まり、社会にはポスター掲示板による宣伝から又相談室を開設してゆこうということでありました。

これに對しまして予め申し出された賛成意見が一つと飛入りの賛成意見が二つありました。

予め申し出られませんでした原氏が次の様に賛成意見を述べました。

賛成意見は今の様子を賛成しまして、その中で特に力を入れて申しましたことは、寺院は旧套を破って檀信徒の先達となつて檀信徒を引張って行って貰いたいと主張しておりました。

次に飛び入りで越路町の関氏が賛成意見を述べました。これは家庭に重点を置きまして賛成しておりました。先ず名家庭から信仰を深めよう。これが社会に仏の教えを浸透させる基であると強調して

おりました。

次に飛び入りで横山健太郎氏が賛成意見を述べました。これは今回の大会を契機として檀信徒会が出来て非常に嬉しい。なせもっと早く新潟県に出来なかつたらうかとくやまれる。

この大会が終わった後で花火の様に消えてしまわない様に努力して続けて行こう。

セイロン大使閣下のメッセーじに日本は各宗派間の交渉が少いがあったが、これはどうか各宗派間の手をつなぎ合わされて仏法の興隆にお尽力願いたい。これが提案理由と賛成意見の全部であります。

これによりまして参会者全員が万来の

拍手をもって賛成いたしました。

次に先進地現況報告として静岡県の寺田氏から報告があり、これは曹洞宗の寺院の檀家関係のお話で宗門護持会とか教区護持会とかいう形でやっているとの明細についてご説明がありました。そういう様なご説明が私共の檀信徒会とどういう点に参考になるかこれから研究してゆこうと思ひます。

只今もお話がありました様に岐阜県の若染一雄氏から岐阜県のお話を承りました。これは私共に非常に参考になりました。私もこれに追いつく様に努力して参りたいと思ひます。

これは内容が非常に多くございますので省略させて頂きます以上でございます。

### 第十回世界仏教徒会議

## 日本仏教代表団七十名

### 五月六日出発

第十回世界仏教徒会議はいよいよ五月九日より十三日までセイロン国首都コロンボ市を中心に盛大に行なわれるが、全仏では大谷光昭会長を名誉団長に、稲田稔理事長を団長として七十名を派遣することになった。

一行は五月五日午後三時より浅草東京

本願寺本堂において結団式および歓送会を開催、翌六日午前十時三十分発のエアフランス機でサイゴンに向かい、ベトナムの仏教事情を視察するとともに平和を訴え、八日夜にコロンボに到着する。九日ウエサカ祭に参列し、十日の開会式に参列し、会議の参加、セイロン国内の仏

蹟を巡拝する。大会に提案する日本側議案は「ルンビニー開発に協力しよう」である。なお、佐藤総理大臣のメッセーじの代読や全仏会長の祝辞が行なわれることになっている。

#### (本部)

大谷光昭

全仏会長

京都市下京区堀川  
通花屋町下ル

稲田稔

全仏理事長

東京都江東区三好  
一―七―七

中山理々

日本仏教鑽仰会理  
事長

東京都千代田区丙  
神田二―三―五

岡野正道

孝道教団統理

横浜市神奈川区鳥  
越三八

麻布照海

浄土真宗善福寺住  
職

東京都港区元麻布  
一―六―二一

岡野貴美子

孝道教団副統理

横浜市神奈川区鳥  
越三八

伊藤哲雄

全仏事務総長

東京都台東区西淺  
草一―五―五

柳了堅

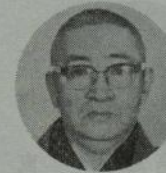
全仏国際部長

浦和市常盤一―五  
―四

伊東堅純

全仏組織部長

東京都足立区竹の  
塚一―一―一五





若月正真

孝道教団会計部長  
横浜市神奈川区鳥越三八



久間田顕了

米国仏教団日本事務局  
京都市東山区五条橋東五ノ四五七



椎谷健

孝道教団事務長  
横浜市南区若宮町四ノ七六



三浦義弘

神田寺主事  
東京都千代田区外神田三十四一〇



真柄信雄

全仏国際主事  
東京都中央区築地三一一七八



本間昭之助

中外日報東京支社長  
東京都国分寺市本多四ノ九ノ一三



織内七郎

千代田トラベル社長  
東京都港区南青山五一六一二〇



門倉常祐

孝道ニュース写真部長  
横浜市中区元町五一九〇



秋好正隆

孝道教団新聞編集長  
横浜市神奈川区鳥越五五



竹村日出夫

孝道教団国際部長  
横浜市保土ヶ谷区星川町一―一四一



武田憲照

真宗大谷派真行寺住職  
川越市宮元町一一二



藤田浄観

真宗大谷派鮮明寺住職  
鉦路市寿町五一七



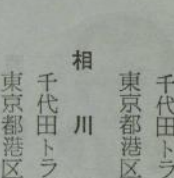
大丸清蔵

東京本願寺信徒  
東京都渋谷区円山町一九一七



近藤英雄

全仏組織専門委員  
東京都渋谷区千駄ヶ谷一―二八一一



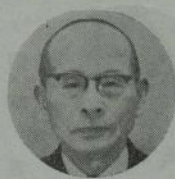
菊島輝男

千代田トラベル社員  
東京都港区南青山五一六一二〇  
相川忠重  
千代田トラベル社員  
東京都港区南青山五ノ六ノ二〇



岸田雄二郎

駒沢大学学生  
東京都大田区大森一一一〇一一



田村一

神田寺信徒  
東京都北区赤羽台三一二六一二〇



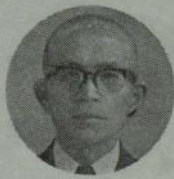
木村直三郎

真言宗金剛院派不動寺住職  
新潟県西頸城郡青海町字青海九一



坂本哲

和宗一音院住職  
大阪市天王寺区元町一七



南塚昭純

北日本文化研究会  
富山県西礪波郡福光町一一七〇



奈良日慎

妙宗公論主幹  
横浜市港北区樽町  
三四八



大谷及勝

真言宗豊山派  
善心寺住職  
東京都足立区興野  
二一〇一五



青木学

真言宗豊山派  
宝仙寺  
東京都中野区中央  
二一三五一三



土佐秀子

浄土宗阿弥陀寺  
寺族  
神戸市灘区住吉町  
垣内七



山下千恵子

真言宗豊山派  
長楽寺信徒  
東京都新宿区原町  
三一十九



山口智光

日蓮宗妙経寺住職  
東京都台東区元浅  
草二一五十三



山口蓮子

日蓮宗妙経寺  
寺族  
東京都台東区元浅  
草二一五十三



中里勝

日蓮宗円通寺住職  
東京都港区赤坂五  
一二一三九



山田龍玉

日蓮宗唱題寺住職  
福岡県鞍手郡宮田  
町磯光一九七



田中千春

曹洞宗自性院副住  
職  
兵庫県豊岡市中央  
五一二九



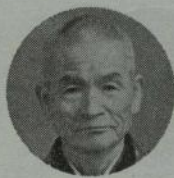
田中政海

真言宗豊山派金乘  
院住職  
埼玉県所沢市上山  
口二二〇三



渡辺英雄

曹洞宗円満寺住職  
岩手県一関市山目  
字館六



服部賢準

曹洞宗明忠院住職  
名古屋市長区大高  
町字鷺津五



森法誠

大乘教南一宮教会  
愛知県一宮市新生  
二一九一二二



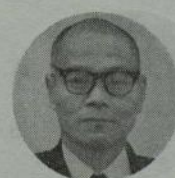
村瀬章遠

日蓮宗大光寺住職  
名古屋市長区鍋屋  
町二一八



坪井良栄

曹洞宗光明寺住職  
群馬県桐生市宮本  
町一六六二



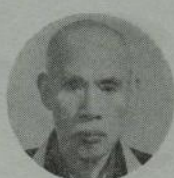
野口善雄

浄土宗浄蓮寺住職  
群馬県桐生市本町  
六ノ三九八



石川馨

真宗大谷派妙勝寺  
住職  
松本市大手五十四  
一十



虎溪猷善

臨済宗慈雲寺住職  
愛知県知多市岡田  
字太郎坊一〇六



細川純

天竜寺派財務部長  
京都市右京区嵯峨  
天竜寺芒ノ馬町六  
八



新美 孝道

曹洞宗福蔵寺住職  
東京都墨田区東駒  
形三十二十一三



細 萱 仙 祐

(第四班)  
真言宗智山派  
免川靈瑞寺住職  
松本市里山辺二、  
九四〇



津 田 豊 成

浄土宗了願寺住職  
金沢市東山一ノ三  
七〇一



上 田 見 宥

浄土宗宝樹寺住職  
大阪市住吉区墨井  
東三一三三



小 田 島 道 雄

曹洞宗龍昌院住職  
秋田県横手市城西  
町四ノ八



小 田 島 哲 夫

磐城農業高校教諭  
福島県いわき市平  
字旧城跡十二



松 田 亮 三

曹洞宗山心院副住  
職  
長野県伊那市みす  
ず区三八八八



山 田 二 三 雄

梅金商店社長  
名古屋市中区岩井  
通四ノ二



(第五班)  
河 村 栄 三

孝道教団常福支部  
長  
武蔵野市吉祥寺南  
町二ノ二六ノ七



安 室 正 彦

孝道教団安楽支部  
長  
横浜市区浜松町  
一四ノ六



河 村 信 子

孝道教団常福支部  
長夫人



中 沢 ハ ル

孝道教団檀徒総代  
夫人  
横浜市鶴見区東寺  
尾町一九五七



五 味 好 信

孝道教団慈音副支  
部長  
横浜市区睦町二  
ノ一七九ノ一〇



五 味 き み

同夫人



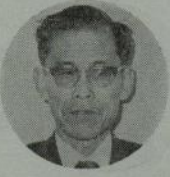
酒 井 喜 登 安

孝道教団慈恵支部  
長  
横浜市区睦町一  
ノ九ノ八



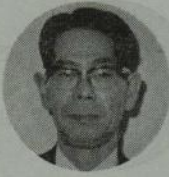
酒 井 タ ミ

同夫人



森 喬

孝道教団湘南支部  
長  
横浜市戸塚区新橋  
町一二二四



高 橋 菊 夫

孝道教団浄真副支  
部長  
横浜市保土ヶ谷区  
仏向町五一九



広 田 忠 夫

孝道教団広栄支部  
長  
横浜市戸塚町三九  
五六



中 沢 正 憲

孝道教団  
横浜市鶴見区東寺  
尾町一、九五七番  
地

昭和四十六年四月一日発行  
四月号 第一六六号

発行人 伊藤 哲雄

編集人 白幡 憲佑

発行所 財団法人 全日本仏教会  
東京都台東区西淺草一五十五(東京本願寺内)